

宗祖大師六百五十回忌紀念出版

勸學利井鮮妙師校閱並題字 釋立智師謹校
司教是山惠覺師校閱並序 司教松浦僧梁師跋

聖祖御傳謝禮記

全 石版表紙美本
二 定價金六拾錢
冊 郵税金拾錢

特別減價金五拾錢郵税金拾錢

親傳聖人の信念行動は則ち活ける真宗なり苟も真宗を知らんと欲せば聖人を知悉するに如くなし御傳二巻は實に聖人を知るの尊書なり然るに本書の註釋古來頗る多しと雖も往々事實の真相を誤りたるもの尠とせず本書は御傳二巻を一々詳細に辨述せし上特に系譜や故實を悉くし事實の考証と見せしこと他に比類なき宗祖六百五十年の忌辰も目焦の間迫りなり是に於て聖人の偉徳を叙述せし確實なる傳記の出版今日に於て最も必要の微意を御諒察の上續々御申込を乞ふ

發行所

京都市油小路花屋町上ル
振替貯金口座四貳壹五番

顯道書院

宗教報國談第三編 諸大家說教

資料戰時應用說教

定價 金貳拾貳錢
郵税 金四錢

○新直論 ○同演達 ○戰死者追用會說教 ○時居慈善會に就て ○戰時道徳 ○新入營者教誨 ○大國民の態度 ○佛教と戦争 ○戰時說教 ○戰死軍人追用會 ○眞體 ○傷病兵士の慰め ○念佛と萬歳 ○佛教軍人 ○戰時婦人會 ○勝利と恤兵 ○兵士の信念 ○念佛と進軍 ○念佛と戦死 ○念佛突貫 ○念佛の功能 ○從軍布教師の通信 ○決死信仰談 ○出征兵士に與へる書 ○兵士の喜び ○戒名を所持して戦死 ○勳章を帶たる白骨 ○追弔唱歌 ○追弔弔詞 ○祭文 ○戦争に於ける宗教の功果其他數種

中谷淨林師說教 子爵毛利元忠公題字

新選自問自答章說教

定價 金貳拾六錢
郵税 金四錢

第一章說聽方軌 ○第二章問答規則 ○第三章當文來由 ○第四章平生業成 ○第五章來迎不來迎 ○第六章正定滅度 ○第七章信具不具 ○第八章信後和名席數四十二席
寺院：病院：入院患者：寺院參詣：說誨師：院長：院長診察：病人物語：安心問答：苦悶中の患者：安心決定者：全快者退院：退院後の心得：信後相續：平素の衛生：看護の必要
著者は先に三位十兩辨の席に於て學校組織の譬喩に依り大に高評を博せられしか今回は全部病院組織の譬喩を以て新新適當なる譬喩因縁及滑稽談を交へ懇切に辨述せられたる他に比類を見ざる良書あり

結城清壽師 柳澤天心師編

布教譬喩合法一口辨

定價 金貳拾五錢
郵税 金四錢

譬喩因縁を應用し其の意を了解せしむるは必要でありませしが長談の譬喩に至ては其の寓意の何れに於るやも開取難き話も亦多く有りませす本書は安心報謝俗歸の部類に付き譬喩を合法し至極短辯に面白く辯じたる事は本書の特色であります

醍醐侯爵題字 足立栗園居士著

通俗日本佛教史

再版菊判全一冊定價參拾錢郵稅六錢
 本書は今を去る千三百有餘年前に於て我國に渡來せし佛教が能く國狀に適し國民を導き國運を進め以て今日に到りし迄の佛教史跡を詳細に叙述し時世の要求國民の希望に應じて救世の本願を發揮したる我佛教各宗の興起傳統をも明かにせしものあり統を分つと五曰傳來の代、興起の代、隆盛の代、進軍の代、遵奉の代、順序整然として一讀の下佛敎史の概要を了するを得べし、特に國史に精通せる足立栗園氏が流暢平易の筆を以て簡明に叙述せられたるものなれば讀者は一層愉快の中に通讀せらるゝを得ん、四方編素兩諸君子幸に愛讀を賜はんことを乞ふ

利井老和上題歌 勝山善巧師述

● 眞俗 二諦御遺訓御消息說教 ●
 ● 定價金拾貳錢 郵稅金貳錢 ●

眞野大哲師述 下間安海師校訂

聖人御繪傳勸說

全六冊 定價金六拾錢 郵稅金拾錢
 本書は四幅の御繪傳十五段を通じて悉く繪解し宗祖大師御一生の間御化導に就て御苦勞の有様を逐一指說せしめしものなれば本宗有縁の縉素乞ふ一讀あれ

勸學小山憲榮師序文赤松連城師題字
 抑月政臣師著述

● 明治 三世因果證據錄 ●
 ● 全五冊 定價金五拾錢 郵稅金八錢 ●

○ 神道ヨリ佛道ヲ難ス ○ 佛道ヨリ神道ヲ反難ス ○ 神道ノ大綱ヲ辯ス ○ 神道所立ノ後生ヲ辯ス ○ 處ノ俗難ヲ舉テ是ヲ破ス ○ 三世因果生死輪廻ノ說 ○ 人ハ必ス前生アリト云フ證據ヲ示ス ○ 人ハ必ス後生アリト云證據ヲ示ス ○ 地獄極樂有無ノ論端 ○ 極樂ノ有無ヲ決ス ○ 地獄極樂有無ヲ決ス ○ 地獄極樂實験ノ例證 ○ 神儒佛三道ノ同異勝劣ヲ辯ス ○ 善惡ノ標準ヲ辯ス ○ 善惡ノ種類ヲ辯ス

大洲鐵然師題字 西應寺勝山善巧師述

眞俗御傳鈔百席談

此御傳鈔一部十五段、**報恩謝德**の爲め祖師聖人の御行狀にこと、**自行化他**は第三代覺如宗主が、**報恩謝德**を御示しあらせられ、**自行化他**の祖德を讚嘆されたる者にして、聖人御滅後六百有餘年の今日親く聖人御在世の御行狀を拜誦するを得るは實に覺如宗主の賜なり

然れども其文簡短にして容易に其深意を伺ふこと能はず然るに從來本鈔に就ての談録夥多ありと、**簡短**に失し一往の文句釋に止り、**冗長**に流れ往々事實の真相を誤るもあり甚難も或は、**簡短**其意を疏通せざるあり或は、**冗長**だしきに至りては聽者の喝采を得んが爲め、**牽強附會**なる臆説を交へ遂に宗意を害するも

め、**牽強附會**のあるは眞に遺憾の極と云ふべし

本書は眞に正信偈百席談の著者西應寺善巧師が内外の語典を涉獵し覺如宗主の本旨に基き聖人御一代の御化導は一として自行化**事實精確**に務め凡て要義を辨じ尤**嶄新**なる他の外ならざること等師が遠識を以て、**事實精確**も現今の時勢に適合せる、**嶄新**なる學論因縁を、**眞俗二諦**に涉り誰人にも了解し易く、**古今獨歩**の一大珍書なり苟も本宗に流交へ、**眞俗二諦**俗談平語に辨述されたる、**古今獨歩**を汲まるゝの縉素是非一讀の下に祖德の萬一を知り玉へ

播州東保福壽寺述

龍樹章說教

本書は眞に淨土和讃二首說教を著し大に世に高評を博せられたる東保福壽寺神子上惠丁師が今回更に高僧和讃龍樹十首を讀題として卷を上下に分ち爽快なる雄辯を以て誰人にも了解し易く譬喩因縁を交へ道歌等を引用し懇切に辨明せられたる良書なり

定價金貳拾六錢 郵稅金四錢

大内青巒 居士演說 佛教演說外護編 全三冊 實價金八十錢 紙數七百餘頁 郵稅拾錢

本書は佛教演說家の泰斗たる内青巒居士大愛國護法の旨趣に依り近來紳士豪族の宗教家政治家學者軍人等に向つて演說せられたる

流暢の辨よく感動を惹き平易の語まづ信根を固む若夫これを一讀せん

の徒亦正に高尚深遠なる佛敎の妙學術又ば百事物に比較應縦横

無盡の演述せられたる實に佛楷梯傳道に從ふ者の寶典疑はざる處なり

大内青巒 居士述 正信・佛講話 實價 金十二錢 郵稅 金二錢

正信偈と申すは僅に七言百二十句八百四十字なる甚は九短の偈文であるから真宗の偈

侶は勿論在家の信者にして之を能く覺て朝夕佛前に於て讀み得るも之は實に我宗の

大師が眞宗を開かされたる時の根本の聖教たる「教行信證」と云ふ本の中でも尤も大

切なる偈文であるに依て此僅に八百四十字の意味さへ能く分れば眞宗の教義は夫で十

分と言はねばならぬ夫故此正信偈には昔から學者たちの註解も講釋も多くなるけれど

も餘りに込入つたことば却て分りにくくなるに依て大内青巒居士が特獨なる通俗辨を

以て何人にも讀み得らるる様解し得らるる様口述せられたるものなれば眞宗の偈侶

は是非一讀すべきの良書にして亦信徒への施本には此上もなき良書なり

勸學利井鮮妙師題辭 西應寺善巧師述

二真俗 五惡段百席談

定價金 五拾五錢 郵稅 金拾錢 石版表裝美本全二冊

釋尊出世の本懷大無量壽經五惡段は佛に因縁の有無に論ずく人界に生を受けたる者一世の間行ふべき

五惡を誡め 因果應報 通れ難き道理を説き末世今日の人心浮薄にして眞宗有

目前見事 縁の徒に於ては尤も大切に守るべき信後俗諦の王法仁義の掟を懇切に教化せられた

に非らば 妄誕怪奇の俗談は先きに正信偈及び御傳鈔の百席談を著し高評ある

西應寺善巧師が諸大家の講説を解し義を明し一宗の肝要たる眞俗二

帝に涉り特に俗諦門に最も力を盡し譬天竺因縁支那譬喩に非らず

に適切にして新なる明治大徳の活法闡提の機は直に入佛の聞信の機

譬喩を引用しあれば本書を一讀せば謗法闡提の好因縁とあり已に聞信の機

に取ては愈々道心を増長し得らるべき事は疑なし荷も本宗に流を汲む諸彦座右に欠くべ

からざるの良書あり ●俗諦の活談 ●實業社會 ●無宗教者 ●監獄囚徒等の布教には適當の書あり

利井鮮 妙師著 六字釋法話 定價金六錢 郵稅金貳錢 本書は利井和尚が有縁の信徒に法話せられしものにして法味愛樂の助縁とす良書あり

勸學赤松連城師題字故勸學見敬院針水利上迷勸學島地默雷師校閱序

寶章卅二論題講說

全二冊 定價金卅八錢 郵税金八錢

本書は故勸學見敬院針水利上存生の節宗學者及び布教家の請ひに應じ眞宗安心の龜鑑たる御文章中肝腎の安心論題の外に必要の論題に付き文章平易を以て懇切明了に講述されたる遺稿を島地和上の精密なる校閲を経て出版せし者なれば宗學專修者は勿論布教家階彦は座右缺くべからざる良書なり

- 論題
- 彌陀ナヲム ● マスケ玉ヘト申ス ● 淨土ヲオホフ ● 彌陀ヲ歸命スル ● ヒントスカ
 - 一念多念 ● 慶喜金剛 ● 機法一體 ● 佛心凡心一體 ● 不來迎義 ● 南無阿彌陀佛ト
 - 云本願 ● 三信一心 ● 一念發起 ● 平生業成 ● 十却久遠 ● 六字釋義 ● 正雜二行 ● 往還
 - 回向 ● 攝取ト光明トノ二 ● 神明三箇條 ● 眞實報土 ● 信心モウセ候ベシ ● 五帖中ノ
 - 教行信證 ● 法華同時 ● 王法仁義 ● 五重義相 ● 阿彌陀如來ノ仰セ ● 珠數ヲモツ ● 宿
 - 善有無分別 ● 回向不回向 ● 淨土眞宗トコリ ● 生レ初メシロ ● 定業等

小泉了 眞一門二礎談 一名 明治活說教 定價金拾六錢 郵税金四錢

本書は眞諦門凡夫越入の要路 ● 俗諦門信者處世の要路の二門を開き内に於て ● 眞實信心を報土往生の正因 ● 稱名念佛を報恩謝徳の要務 ● 王法人倫を念佛行者の行義の三礎を立て ● 信心正因に稱名報恩の義を明了に水際を分ち懇切に辨じあれば法味愛樂に至極適當の良書なり

勸學小山慈榮師題字 西應寺勝山善巧師述 (總平かな付) 表裝美麗 實價五十錢 郵税金八錢

正信偈百席談

古來正信偈に就て談録夥多ありと雖も或は義理に偏し或は俗談に流れ未だ其中を得たる者なし内地雜居の今日に於て事實相違せる妄誕不稽なる天竺話の怪奇因縁を説き却て其信仰を失せしむるに至ては遺憾千萬也然るに本書は當時教界に有名なる西應寺善巧師が諸大家の講説に基き龍く義理を極め蘊奥を盡し席を一百に分ち每席時勢に適切せる特新なる譬喩因縁を加へ眞俗二諦に涉り誰人も了解し得べき機辨述されたる古今未曾有の良書なれば尙本家に流を汲むの諸彦一日も缺くべからざる書也 大内青龍居士演譯 安藤正純師和解 (總假名附)

淨土妙典三部經譯解 極美製 全一冊 實價五十錢 郵税金六錢

淨土三部經は淨土門正依の本經にして彌陀淨教の極致他力易行の主旨此中に窮盡して餘す所なし此故に其名號の法味を愛樂し現當二世の勝益を受けんと願ふものは此三經に由て具に其玄底を叩かざるべからず然れども自己の愚見に任じて恣に行はるゝ者少からずと雖惜哉用語難澁議論復雜專門の佛學者に便なれども世上一般を益することなし爰に於て平易通俗に三經の主旨を叙し淨土門内外の人をして淨土門の大家安藤正純師を煩はしてこれが和訳を施したるものなれば尙も佛教の門に遊んで醍醐の法味を味はんとせらるゝ人は一日も坐右に缺く可からざる良書なり

文學博士南條文雄、國母社編輯局編纂 (文章平易總か女附)

第 三 佛 事 物 問 答 五 百 題 全 紙 數 四 百 餘 頁 實 價 金 四 十 五 錢 郵 稅 八 錢

◎ 目 次 の 大 要

教 旨 相 承 日 本 現 在 の 宗 旨、法 相、華 嚴、天 台、真 言、融 通 念 佛、淨 土、法
數 名 目 例 曹 洞、黃 檗、眞 宗、日 蓮、時 宗 等 宗 義 の 要 旨 及 史 傳 の 大 畧 を 叙 す、法
生、十 大 弟 子、十 二 分 教、十 六 行 相 等、佛 教 各 宗、六 波 羅 密、七 佛、八 正 道、九 品 往
の 教 理 に 亘 て 極 度 肝 要 切 實 の 名 目 を 説 明 叙 述 す、堂 塔 經 卷 道 場、尼、寺 院、
經 卷 大 藏 經、佛 像 佛 具、鐘、木 魚、太 鼓、寶 鏡 佛 舍 利 等、法 衣 法 具、珠
戒 法 等、錫 杖、拂 子、如 意、三 衣、紫 衣、金 襴 寺 錄 僧 位、官 寺 の 初、寺 祿 の 初、僧 官
衣、修 多 羅、直 纒、六 物、袈 裟 の 由 來 等、佛 事 由 來、祖 師、善 知 識、長 老、寄 附、過 去
大 和 尚、座 主、長 者、供 養 莊 嚴、散 錢、燈 明、華、飲 食、諸 會 式 典、
法 主、門 跡、律 師 等、御 修 法 維 摩 會、彼 岸 會、灌 佛 會、放 生 會、孟 蘭 盆 葬 祭 吊 薦 葬 式 灰 葬、七 七
會、十 夜 法 要、報 恩 講、御 忌、永 代 經、施 餓 鬼 等、沙 門 桑 門、和 尚 弟 子、導 師、
婆、石 塔、追 善 の 心 得、佛 葬 の 初、佛 事 由 來、祖 師、善 知 識、長 老、寄 附、過 去
帳、位 牌、幽 靈 の 事、斷 未 魔 の
帳、祠 堂 金、逆 修 等 總 計 五 百 題

筑前福岡德榮寺述 大久保一枝編纂

◎ 因縁領文説教

本書は夙に説教を以て名聲を西海に轟かされたる筑前福岡德榮寺大野義溪師が全国淨泉
寺に於て懇恩講の節時に師が獨得の因縁談を以て縦横自在に明辨快説を振はれたる説教
筆記なり替て師を贊するもの云へるなり筑前に如何なる大家の來化あるも師と七里和尚
の教化を受けしもの多く他界に去るにあらざれば其の名を占むる能はざるべしと以て其
感化の進して知るべきなり然らば吾人の發辨を要せず如何に本書の價値あるかを知ら
玉へ

定價 金貳拾錢 郵稅 金四錢

◎ 七高僧御教化法話

本書は元七里和上の門弟にて學德兼備の譽れある越前鯖江小泉了諦師が御正覺七晝夜の
御法會に際し龍樹菩薩を始とし源空聖人に至るまで七高僧の一師に就て一會つゝ難易二
道、一心歸命、自他二力、聖淨二門、二種深信、念佛一門、三種選擇等の七題を掲げて目下
時勢に適合すべく眞宗和漢の聖教を引用し眞俗二諦の宗義を懇切叮嚀に辯述されたる眞
に改良説教とも云べき良書なり

實價 金拾錢 郵稅 金貳錢

◎ 七里和尚法話聞書

本書は明治佛界の禪德萬行寺七里和尚の存生中垂誡されたる法話を某信士の親しく隨聞
隨記せるものにて特に求法、安心、報謝、處世の部門に分ち部毎に最も適切なる譬喩
を加へ之が説明を了解せしめんが爲め逐一圖畫を挟み誰人にも領得し易く、講義されたる

實價 金拾貳錢 郵稅 金貳錢

佐竹智應師編纂 平常談話之部盡入

258
3
290

加藤咄堂居士講述 東京國母社出版

佛教大意十界說教

言文一
致附

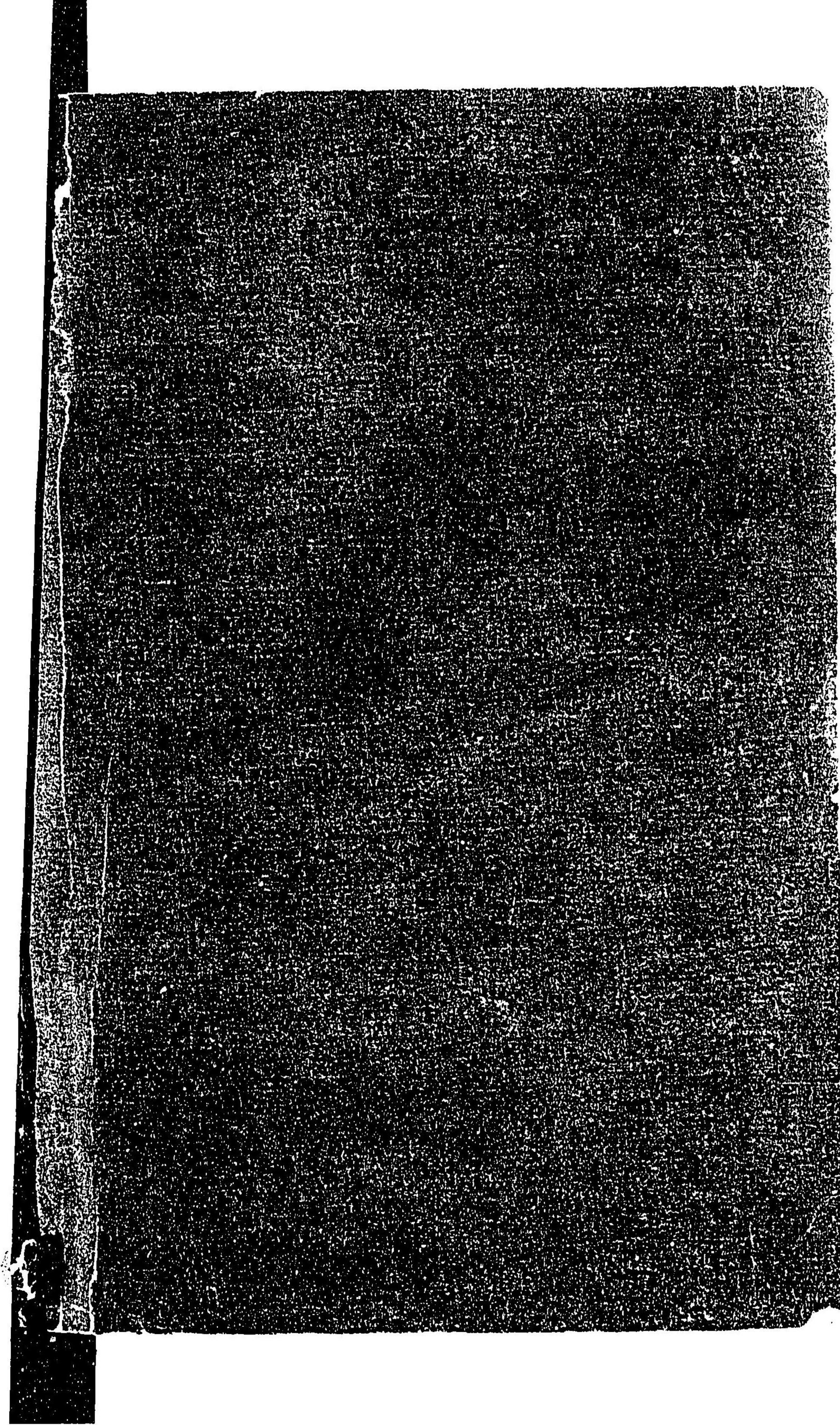
定價金貳拾五錢
郵稅四錢

佛教の大意を知らむと欲するものは先づ佛菩薩緣覺聲聞天上人間修羅畜生餓鬼地獄等十界を知らざるべからず。然も此十界を説くに多くは時勢に適したる方法を以て先づ最も佛法の大意より十界迷悟に入り嶄新なる須彌山地獄極樂の有無を説き人天の大道六道輪廻を明し聲聞緣覺の佛菩薩に入り十界依正を總説し惡因果應報の理を何人にも解し易く經説を賛題とし譬喩を用ひ因縁を擧げて法の大意を知らむと欲するものゝ缺くべからざるの要書なり

發賣所

京都市油小路通
花屋町上ル

顯道書院



258
3
890

特